

# 足利市の医療・福祉を考える!!

ニュースレター vol.1

◇発行日/2010年2月  
◇編集・発行/  
足利市の医療・福祉  
を考える議員  
◇連絡先/  
下記に表示

## 事業仕分けによる

## 8事業 約2億円

## 事業仕分け を考える

# 福祉の切り捨てが心配です

### 事業仕分けで 廃止・後退となる事業

昨年10月24・25日、足利市の60事業について仕分け作業が行われました。そしてこの事業仕分けの結果を参考に、市執行部は3事業を廃止し、5事業を改善実施としました。

### 廃止3事業

① 愛のひと声事業 (H20実績19,378千円)

独居老人の安否確認として乳酸飲料を直接手渡しし孤独感解消も行う事業

② 障害者ふれあいサロン事業補助金 (H20実績 7,370千円)

通り2丁目「砂時計」で障害者が授産施設製品を販売する就労訓練事業

③ 耐震性貯水槽設置事業 (H20実績 8,243千円)

消火栓以外での信頼・汎用性のある耐震性を有する貯水槽設置事業

### 改善実施5事業

① 介護慰労金給付事業

② 福祉用具給付事業

③ こども医療費助成事業

④ 重度心身障害者医療助成事業

⑤ ひとり親家庭医療助成事業

### 実態を踏まえない 事業の切捨て

独居老人の見守り活動である「愛のひと声事業」は、具体的な代替案

も示さずに廃止が決定しました。市執行部は「地域のつながりの中で行うべきである」という理想論を述べますが、もともとこの事業は「地域のつながりの希薄化」により始まりました。それが約30年前であり、現在の状況はさらに深刻です。事業廃止と理想論は、実態をまったく踏まえておりません。また、この事業は、孤独感を解消する「会話する機会」も提供してきました。さらに、この事業に賛同した企業の社会貢献度を加えれば、市が支払う以上の費用対効果があります。実際、この事業の提供を受けている方々からは「話ができて嬉しい」「不安の解消につながる」という声をいただいております。福祉を切り捨てるよりも、削るべき事業は他にあるはずで、私たちは、本事業廃止を中止するように強く要請しています。

### 愛のひと声事業

毎日、乳酸飲料を一人暮らしのお年寄りのお宅にお届けしています。その際に安否を確認したり、話し相手にもなっております。

現在、この事業のサービスを受けている方は「毎日声をかけてもらい、誰かに見守られている安心感があります。この事業を中止しないでください。」と、語っています。



### お年寄りや子どもをサポートし希望のある街をつくります

市民の意見をもっと聞いてもらえれば、本当に必要なことがわかんと思うのだけど...



独居老人は見ずてるのに調剤薬局に1億5千万円かけるの？



### 市民の皆様に真実を伝え、正しく判断をいただくためにニュースレターを発行しました。

事業仕分けによる事業の廃止をはじめ、調剤薬局の建設等、足利市はいま様々な課題を抱えています。ただ、その情報はマスコミ等から伝わる事が多いため、なかなか“本当の事情”が伝わりにくくなっています。そこで我々は、“真実”をお伝えするために、このニュースレターを発行いたしました。市民の方々の、市政に対する正しい判断の材料となれば幸いです。

発行者

足利市の医療・福祉を考える議員

帆足 章・西田 智男・渡辺 悟・柳 収一郎・大須賀幸雄・荻原 久雄・栗原 収・長岡 正幸・加藤 正一

(☎41-7767)

(☎41-7694)

(☎42-6768)

(☎21-0027)

(☎62-5533)

(☎72-5193)

(☎72-8292)

(☎22-0018)

(☎62-0054)